

2019年度 第4回子ども・子育て会議 【顛末】

2020年2月13日（木）18:30～20:00

富良野市立図書館 3階会議室

出席者：富良野市：近内教育長・亀淵部長・山本課長・松木

委員：青木会長・桑折・山崎・出合・川村・畠山・山崎・青山

1. 開 会

2. 委員委嘱

➡教育長より一言あいさつ

- ・本計画は、策定して終了ではなく、スタート
- ・目的に近づくために、修正を重ね、毎年推進する中で不都合や改善がでてくる
- ・これから2年間、改善点について委員の民様からはご意見をいただき、よりよいカタチで健やかな育ちに向けた施策や環境づくりに協力をいただきたい

3. 会長・副会長選任

➡富良野市子ども・子育て会議設置条例第5条の1に基づき、会長・副会長を1名ずつ互選

- ・互選の方法についての意見は皆様からなく、事務局から提案
- ・子育て計画策定の審議途中という点からも引き続き「ひまわり幼稚園青木園長に会長」「虹いろ保育所桑折所長に副会長」を再度お願い
- ・拍手で全員賛同

4. 会長あいさつ

➡ 毎回、つたない進行ですが、よろしく願いいたします

5. 報告事項

(1) パブリックコメント（11月20日～12月2日）の結果について

➡2月1日広報/HP 回答

(2) 第3回庁内子ども子育て連絡会議実務者会議1月17日

- ➡ (1)(2)一括して松木から説明
- ・質疑なし

6. 協議事項

(1) 子ども・子育て支援事業計画（案）について

(2) 計画のダイジェスト（概要版）について

➡ (1)(2)(別紙)の3点を一括して松木から説明し、最終審議とさせてもらう

出合：パブコメの中で障がいを持った方からの意見がありましたが、この会議に障がいを持った保護者が参加することは可能ですか？意見があるということは、この計画にはその立場の人が必要ではないか？意見を吸い上げる場が必要ではないか？

限られた人たちの集まりではなく、療育をはじめ各世代の代表を集めて色んな人の意見を聞くべきではないか？

松木：どこまで参集するかは難しく、多様な意見を盛り込む必要性を感じていますし、家庭ごとに事情が違うことを認識しつつも、意見の吸い上げについては、各課で聞いてくるカタチにしておき、円滑の会議の運営上、このようなカタチになっていることをご理解いただきたい。直接意見を聞く場は、パブコメしかないのですが、会議の中身によって意見を吸い上げたり、参考にさせていただく場合はアドバイザーのようなカタチで参加いただくことは可能と考えています

山本：療育の関係では、市内には市が直接運営している施設もあり、毎年評価しており、そこを通じて意見を吸い上げる仕組みをつくることは可能

直接来ていただくことも重要だが、意見を吸い上げる仕組みをつくることが重要

山崎：小学校の現場としては療育の関係はもっと充実が必要と感じています

今はできる範囲でやっている。今後、つながりを考えるとさらなる強化が必要

川村：医療費の負担軽減が必要。予防接種など早期発見につなげる医療の負担軽減には、受診の負担軽減が必要。今回の医療体制の確保は、あくまで医師の確保ですか？

亀淵：はい、病院側の医師の確保費用です

川村：保護者のニーズは、負担の軽減

早期の受診を促し遠慮なく受診できる体制には負担軽減を求める声が母親世帯から聞こえてくる

また、スキー場のリフト券無償化は中学生もですね？

山本：中学生も無料です。富良野市独自の施策です

松木：富良野市の特徴的な取り組みをピックアップさせていただいた

川村：図書館の充実も必要。コミュニケーション力が低下しているので活字による学びは重要

青山：この別紙はまだ議会を通過していないものですね

亀淵：記者発表済みであるが、3月の議会承認を経て正式になるものです

青山：児童館や学童の延長の予算は主に人件費ですか？

亀淵：はい、人件費です

青山：施設がよりよくなるわけではない

亀淵：緑町や桂木は定員をオーバーしてる状況なので、勤務時間の延長で対応する

青山：コミュニティスクールの充実とは？

松木：P80ですね。学校と保護者、そして地域の見守りに向けたつながり・関係づくりです。

地域も各地域の事情は異なりますが・・・

青山：具体的な強化とは？現場にいと地域とのつながりが難しいと感じている
教育委員会等に入っていていただいて機運の醸成に努めていただきたい
小学生のコミュニティスクールが入っていないのは？

松木：紙面の都合上だけなので、今後収まるように検討します
ほかにも入っていないものがあります

青山：図書館の学び場づくりとは？

松木：本会議で図書館のあり方について議論ができた時に、図書館側で早速動いて、昨年12月に2階を学習スペースにまずは開放をして学びの場としています
今後、2022年の新庁舎移転に伴い3階が空きスペースになるので、そのスペースの活用について検討するものです

青山：まだ具体的に決まっているわけではないですね

松木：具体的にはこれからです

畠山：学童保育の時間拡大はありがたい

ワーケーションとは何？

保育のIoTシステムとは

新築リフォーム補助の内容は

イクボスの推進は具体的にどう推進する予定ですか？

松木：学童保育は、従来より前後30分の延長になります

ワーケーションは、ワーキングとバケーションの造語でして、旅行先で仕事をするを言います。近年インターネットの普及でどこでも仕事ができる環境が整ってきており、長期滞在型の宿泊施設が多い富良野での旅行先で働くなどの取り組みを強化し、スタートアップ企業などの関係人口を増やしていく取り組みです。

また、インターネットやデジタルの普及により、テレワーク（在宅で仕事ができる）をできる環境を観光面・移住政策の一環で進めていくものです

IoTシステムは、保育の現場での人手不足を解消する動きの中で午睡チェックや体温計、また入退園の管理などをデジタルセンサーなどで保育士の負担を軽減するデジタル機器が普及してきていますので、それらの活用についての検討です

新築リフォームは、予算の内示はしましたが、具体的な中身はこれから3月議会で詳細が判明するのでこれからになります

イクボスは、ワークライフバランスなどの具体的には機運の醸成です。まだまだ広まっていない状況なので、セミナーなどを通して広げていこうという考えです。JC（青年会議所）などもイクボス・育休の拡大などを進めていますので、商工労働係と連携した取り組みになってくると思います。

出合：子育て支援センターは2人目から登録して利用を始めた。最初の子は、登録するメリットをしらずに自由に行けるときに行っていたが、2人目は登録してるメンバーと毎週顔をつきあわせることでコミュニケーションが深まり安心できる環境にあるので、もう少しPRしてほしい

登録を嫌がる保護者もいるが、誰でもきてフリーに利用できるように開放してほしい声も聞こえてくるが、そうではなく安心できる場にしてほしい

松木：子育てサロンの時間延長は、これまでの規制緩和を検討し、子どもの数も減ってきているので、センターの柔軟なあり方を検討するために試行的な取り組みですので、ご意見を参考にしていきます

青木：切れ目のない支援が重要なので、子育てセンターから幼稚園などのつながりが重要になってくる

桑折：保育所も月1回に園開放を行っており、PR不足もあるので、改善していきたい

山崎：年々、遊び場を求めている保護者が増えている。つながりが生まれ安心できる環境整備が求められていると感じる

今回の計画・会議の範囲が幅広い

それぞれの分野をまとめるのは大変で、ニーズに答えるのは大変だが、本計画はよくできていると思うので、今後新たな課題が出てきた時は、テーマを絞って専門の方にも会議にも出てきてもらう仕組みがよいと思う

子どもの数が減ってきているのを実感しているが、待機児童はどれくらいいますか？

山本：待機児童の定義が、国も一貫しておらず混乱している

希望する施設に入れない待機児童を潜在待機としているが、今年は2名の潜在待機がいて、最終的には解消した

しかし、育児休業を終えてすぐに働きたいニーズが増加傾向にあり、来年度は潜在待機が増える状況

この1~2年は潜在待機があっても、年度内に空きがでて解消していたが、来年度は待機になる予想をしているが、認可外施設を紹介するなどして、待機の解消に努めています

青木：食育の観点からも幼稚園の給食を地元の給食センターから供給できる体制を整えてほしい

現在は旭川の業者から入れているが、距離がある分冷めて美味しくない

色々学校給食法の問題もあると思うが、稚内市では地元給食センターから供給できていると聞いている。精査していただいて検討いただきたい

山崎：賛成です。何年か前に聞いて時は無理ですと言われた

亀淵：へき地保育所の保護者からも要望がでて

今年から上富良野高校でも希望者のみでスタートしている

川村：キャパ的には大丈夫か？

亀淵：キャパは大丈夫だが、年少や年中組など野菜などのカットの大きさやアレルギーへの対応でスタッフの増員などが必要。富良野はアレルギー対応しておらず、通常の献立表だけでなく、詳細献立表を保護者にチェックしてもらい保護者に選んでいただいて、ダメな場合はお弁当を作っていたらいい状況。思想上の関係で一切食べない方もいる

出合：タブレット学習に大きな予算がついているが、どんなことを学習するのか？本当に必要？

亀淵：この4月から新学習指導要領の中で小学生にプログラミング教育がスタートします。内容は論理的な思考を学ぶ。諸外国に比べるとデジタルの対応が遅れており、GIGAスクール構想により一人一台のタブレットを配布していこうとする国の方針

実際に具体的な使い方は試行錯誤の段階で、タブレットが先にくる状況ですので4月以降は学校の先生方とICT研究会を作って内容を検討していく予定

出合：国から予算がでる？

亀淵：まずは通信環境を整える方からスタートし、新年度の6月補正予算でタブレット購入の順番になる予定

授業でも児童の学習の習熟度ごとに繰り返し学習できるようにタブレットで学習を進めていくなどが予定されている

7. その他

(1) 今後のスケジュール

- ➡ 今日頂いた意見は、計画に含まれている内容と思いますので、3～4月に次回の庁内子ども子育て会議実務者会議で共有させていただき、具体的な検討へと進めてさせていただきます
また、2月21日には議会の総務文教委員会でも共有させていただきます
次回以降は、本計画の評価に移っていきますので、秋までに一度開催を検討していきますので、みなさまのお立場で注目いただきければと思います

8. 閉会